

あきたで長く楽しく 暮らす研究室

<第6回>



目次

「年の差フレンズ文化祭」

- 1、年の差フレンズ文化祭について
- 2、運動チームのプレゼンテーション
- 3、食チームのプレゼンテーション
- 4、音楽チームのプレゼンテーション
- 5、まとめと今後の課題



1、年の差フレンズ文化祭について

今年6月から講演会やワークショップに参加して、みんなで考えてきた「年の差フレンズ」について。半年の学びや話し合いの結果を発表するためと、本格的な年の差フレンズづくりのアクションの第一歩として、「年の差フレンズ文化祭」を開催しました。

年の差フレンズ文化祭の概要



日時：2016年11月27日（日）

10時～15時

会場：市役所1階「市民ホール」

次第：10:00～ 開会式

みんなでやろう太極拳

11:00～あきたおやつ・ばったら焼きを楽しもう

12:00～目指せ5000歳！秋田県民歌大合唱〈第1部〉

13:00～お昼休み

14:30～目指せ5000歳！秋田県民歌大合唱〈第2部〉

2、運動チームの発表「みんなでやろう太極拳」

太極拳歴10年のリームちゃんのご紹介で太極拳の先生3名を迎えて、初心者向けの太極拳を指導してもらいました。

まずは身体をほぐすところから始めて、基本の動作を少しばかり教えてもらおうと、参加者は全員、太極拳らしき動きができるように。

先生からは「身体を動かすことの楽しさと大切さが分かったはず。太極拳でなくてもいいので、好きなことで身体を動かすようにしてください」とのメッセージをもらいました。

その後、「秋田県民歌」にのせて、先生たちが剣舞を披露。県民歌の雄大なメロディーと流麗な剣舞が一体となった舞台に、参加者の間からはため息がもれていました。



3、食チームの発表

「あきたおやつ・ばったら焼きを楽しもう」

秋田に伝わる、米粉を使った懐かしいおやつ「ばったら焼き」。昔ながらのプレーン（黒糖ゴマ入り）なばったら焼きに加えて、新たに2種類（キャラメルナッツ入りとサツマイモチーズ入り）のイマドキばったら焼きを開発。合計3種類のばったら焼きを、来場者のみなさんに味わってもらうことにしました。

当日は9時に、センタースの調理室に集合。3班に分かれて3種類のばったら焼きをつくり、11時から1階市民ホールでお披露目。予想外の大人気で、3種類ともあっという間になくなってしまいました。人気投票も行われ、結果は1位がキャラメルナッツ入り、僅差の2位がさつまいもチーズ入り、3位がプレーン（黒糖ゴマ入り）でした。



4、音楽チームの発表

「目指せ5000歳！ 秋田県民歌大合唱」

秋田県民ならほぼ誰でも歌えるという「秋田県民歌」をはじめとする秋田に馴染の深い歌をみんなと一緒に歌おうという企画。昼休みを挟んで第1部と第2部に分かれて開催されました。

第1部では、NPO法人「We Love あきた歌のネットワーク」専務理事の石井仁さんによる秋田県民歌についてのレクチャーを受けた後に、県民歌に加えて「ふるさと」などの唱歌の合唱を楽しみました。第2部では、大きなモニターに映し出される歌詞入りDVDを見ながら、キーボードの伴奏を得て、「秋田県民歌」と「県民の歌」を合唱しました。



年の差フレンズ文化祭 イベントハイライト



本物の「フレンズ」へ

運動チームの太極拳では、二人一組でチームとなって、お互いの手や肩を叩き合うゲームを行いました。参加者のみなさんは、ゲームに成功してお互いに喜んだり、失敗して笑い合ったりと、初めて対面した年の差のある相手とも簡単に打ち解けていました。「直接触れ合う」というアクション的要素も重要なポイントだったようです。なによりも参加者全員が笑顔だったところがとても印象的でした。

イベント特別缶バッチ



「年の差フレンズ」のことをもっと広く知ってもらうために作られた缶バッチが、参加者全員に配られました。缶バッチをデザインしたのは、スタッフの菅原葵さんと草薨紀子さんです。かわいらしい女の子や、オシャレな男の子、上品そうな奥様やおじさまなど全7種の絵柄がありました。「年の差」ということで、先輩方には女の子や男の子の描かれた缶バッチ、後輩方には奥様やおじさまの描かれた缶バッチをつけてもらいました。あ

まりのかわいらしさに「全種類持ち帰りたい！」という声も…みなさん、どんどん広めてください！

最後は参加者・スタッフ全員で記念写真！



5、まとめと今後の課題

良い点
改善点

予想を超える参加者数があった

目標とした参加者数は大きく見積もって100人でしたが、当日は目標に近い参加者があり、会場の市民ホールは賑わいと熱気に満ちました。

幅広い年齢層の来場があった

「年の差フレンズをつくろう！」という呼びかけが功を奏したのか、参加者の年齢層の幅は予想外に広く、65歳以上のシニアに加えて、子育て世代が子どもたちと一緒に参加する姿が目立ちました。

3種類のプログラムがそれぞれ人気だった

運動、食、音楽の3種類のプログラムは、どれも人気を博しました。年齢や経験を問わず簡単に誰にでもできて、ワイワイ楽しいことが成功のポイントだったようです。



マスコミ取材でメッセージが広く伝わった

秋田魁新報から取材が入り、11月30日の朝刊に大きく掲載されました。参加者女性(66歳)の「普段あまり話さない若い世代の人や、70、80代の人と気軽に話することができる貴重な機会だった。新鮮な気分を味わえた」というコメントや、主催メンバーの男性(31歳)の「思った以上に年代が幅広く、たくさんの方が来てくれた。世代を超えた交流が生まれると、見識も広がり、暮らしが豊かになると思う」というコメントが掲載され、「年の差フレンズ文化祭」の目的や成果が広く秋田県民に伝えられました。



メンバーが主体的に動き、工夫があった

3チームに属するメンバーが主体的に動いたり考えたりして準備を重ねた結果、工夫や仕掛けのある内容となっていました。このことが来場者を楽しませたいちばんの要因です。

開会、閉会などの挨拶、司会進行の段取りがうまくいかなかった

3チームの活動発表は責任をもってできていたものの、全体を統括するためのプログラム(開会式や閉会式など)や司会進行については検討しわすれていました。今後は、参加してくれる人のことを考え、次に開催する時の検討材料としたいです。

〈今後の課題〉

活動の場を広げるためには

どうしたらいいのか？

今回の成功を糧に、もっといろいろな場で活動回数を増やしたい。その「場」や「機会」がどこにあるのかを探す、または作り出すにはどうしたらいいのかを、情報と知恵を持ち寄り検討する必要があります。

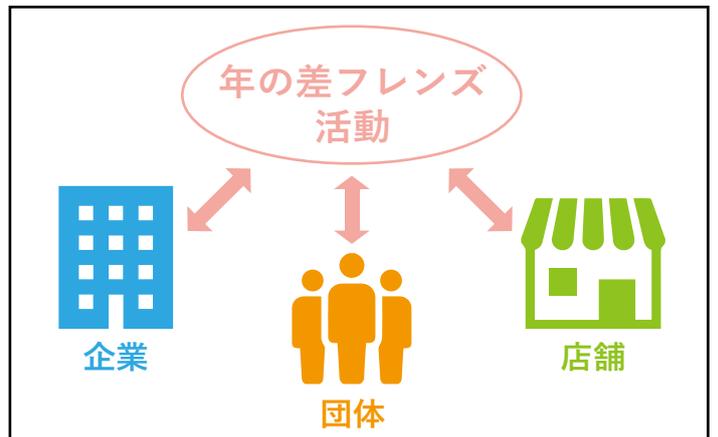


年の差フレンズづくりをより拡大するためにはどうしたらいいのか？

今回得た情報や経験を生かして、秋田市を「年の差フレンズ」でいっぱいにするためには、これからどんな活動や工夫をしたら良いのかを考えます。

企業、団体、店舗などの協力を 得るにはどうしたらいいのか？

活動を広げるためには、お金や場所などを提供してくれる組織の協力が必要になってきます。それをどのように得るのか、またどのようにして企業や団体などをこの活動に巻き込んでいくのかについて考える必要があります。



第8回のお知らせ (1/15 日曜日)

ランチ (12:00 - 13:00)

ワークショップ (13:00 - 15:00)

■新規申し込み方法

参加を希望する方は、名前、電話番号、参加人数を以下にご連絡ください。

電話：018 - 888 - 5666

FAX：018 - 888 - 5667

メール：ro-wflg@city.akita.akita.jp